



いちょなみき

No. 64

岡山大学病院

特集
Special Section

「最後の砦病院」として

Artful & He Artful な病院に……。

特別寄稿 サイエンス誌「2011年十大成果」に選出!
沈 建仁 岡山大学大学院自然科学研究科 教授

- 卒業生その人に聞く 片山 梨絵 さん マウンテンバイク選手
- きらり岡大生 岡嶋 省悟 経済学部4年
- 男女共同参画室 / 次世代育成支援室 / グッドジョブ支援センター
- News & Topics 大学の動き
- 年間後記





横野 博史 ● まきの・ひろふみ
専門は腎・免疫・内分泌代謝内科学。岡山大学医学部卒。同学部教授、同大学院医歯薬学総合研究科長などを歴任し、2011年4月から現職。岡山市出身。

岡山市北区鹿田町。43診療科（医科31、歯科12）865床。診療は月～金曜日9時～17時（受付：8時半～15時）。臓器移植、小児心臓外科手術、幹細胞移植など高度な先進医療や、遺伝子細胞治療など先端的治療の開発では全国で最も進んだ施設。診療科連携を生かし、臓器移植医療センター（心臓血管外科、呼吸器外科、肝・胆・膵外科）、内分泌センター（内分泌内科、乳腺・内分泌外科）、周産母子センター（産婦人科、小児科）、周術期管理センター（麻酔科蘇生科、歯科、看護部、薬剤部等）などさまざまなセンターを立ち上げ、高度な医療を提供する。鳥取県三朝町にある「三朝医療センター」は全国でも珍しいラドン温泉を利用した治療やリハビリを行っているが、深刻な医師不足から3月末で入院患者の受け入れを中止し、4月1日以降は外来診療のみとなる。

特集
岡山大学病院
University Hospital

「最後の砦病院」として

Artful & He Artful な病院にー。

基本理念「高度な医療をやさしく提供し、優れた医療人を育てる」の下、中四国の中心的な医療機関として、存在感を増す岡山大学病院。大学病院として人材育成も担い、初期研修から一貫した医療人育成プログラムを実施。地域のリーダーとなる医師・歯科医師やコメディカル（医療従事者）を輩出し続ける。

昨年4月、就任した横野博史病院長は「高度な先進医療や難しい手術はもちろん、各診療科が連携することで他の医療機関で診断・治療ができなかった患者さんの診療を行う『最後の砦病院』として役目を果たしたい」と力を込める。

横野病院長が掲げるもう一つのキーワードが「Artful & He Artful な病院」。古代ギリシアの医聖ヒポクラテスが医師を志す人に贈った言葉「Art is long, life is short」（医療を修得するには長い年月を要するが人生は短いもの

なので、怠らずに勉学に励め）に由来する。「医の知識、技術だけでなく、心を持った医療人であってほしいという願いを込めた。心を備えてこそ本当の医療ができる」

4月には、岡山県内2カ所目となる高度救命救急センターと全国の大学病院で初となる頭頸部がんセンターが運用をスタート。2013年春にはより高度な医療を提供できるインフラと診療体制の充実を目指し、ハイブリッド型手術室など20の手術室を備えた総合診療棟（仮称）を稼働させる。

「基礎研究のシーズを臨床応用した新医療の開発など、高い医療水準の維持・向上という大学病院の使命を果たしつつ、病病・病診連携等、地域とのネットワークの強化を図りたい。医療人も患者さんにもやさしい病院づくりを心掛け、両者を惹きつけて離さない『マグネットホスピタル』でありたい」



「頭痛はありますか?」「胸焼けは?」「倦怠感?」。丁寧に問診し、患者の訴えに耳を傾ける。総合内科は、紹介状のない患者や、対応する診療科が分からなかったり、複数の診療科にまたがる患者を受け入れる。患者の主訴などから、専門医による治療の必要性を見極める。

「専門科と連携できる総合内科医(総合内科専門医)として、チーム医療の総合的な担い手になりたい。地域の患者さんが大病院の門をたたくまでの時間をできるだけ短くし、スムーズに先進医療に結びつけられるシステムを整備したい」と4月に総合内科長(教授)に着任する大塚文男准教授。



大塚准教授がまず目指すのは「総合内科―地域連携システム」の構築。地域医療連携室を中心に、紹介・逆紹介を含めた患者情報の円滑なやりとり、大病院と紹介元の医師間の連携を強化した上で、地域医療における教育システムとしての機能も整える。「地域の病院や開業医と顔の見える関係を築き、困ったときに頼れる科でありたい。敷居が高いと言われがちな大病院を本当の意味で『あなたのそばに』近づけたい」という。

総合内科の外来診療は月々金曜日の9〜12時、13〜16時は予約のみ。上級医とともに卒後の内科研修医が診療に加わることもある。

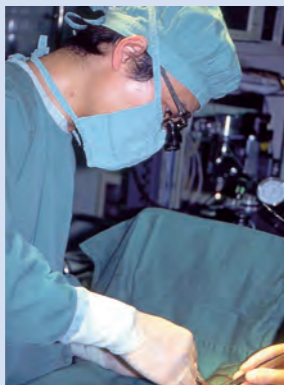
総合内科 総合力と専門性のハブに 地域連携の窓口

総合内科専門医▶日本内科学会の認定を受けた専門医。多臓器にわたる病気、診断に苦慮する病気、臓器別専門科の枠外にあたる病気などを全人的な観点で診療する。一般・総合内科の医師として地域における「かかりつけ医」、急性・救急医療での「初期対応医」、大病院などでの「専門科と連携できる総合内科医」としての役割が求められる。2011年11月現在、総合内科専門医は全国で1万4,434人、岡山県は325人。

「小児外科で扱う病気は先天性のケースが多い。原則、新生児から中学生までを対象とするが、こどもの一生は長く、術後の長期的なフォローが欠かせない。大人になるまで付き合う患者さんも多いです。」

医学士時代に実習した新生児医療の現場が小児外科医を志す原点になったという野田准教授。常にこども視線を心掛ける。

対象となる病気は鼠径ヘルニア、腸閉鎖症、先天性胆道拡張症、急性虫垂炎、気管・気管支狭窄、停留精巣、神経芽腫など手術を必要とする消化器、呼吸器、泌尿生殖器の病気。



マイクロサージャリー▶マイクロ(微小)+サージャリー(外科)、つまり微小外科のこと。手術の際の手法の一つ。顕微鏡あるいは拡大鏡を使って行い、髪の毛よりはるかに細い針糸を用いて血管やリンパ管、神経などを縫い合わせる。生きた組織を移植することで、機能の維持・回復が見込めるほか、患者の心身の負担軽減という利点がある。

相次ぐセンター設立 診療科も充実

「あなたのそばに先進医療」をモットーとする岡山大学病院。大学病院のユニークな診療科連携を生かし、科の枠を超えて共働するセンターをはじめ、各科が患者に寄り添う医療を提供する。今回は新設のセンターや新体制となる診療科を紹介する。

小児外科 こども視線で手術 10年ぶり本格診療再開

治療のモットーは「ハンディキャップを残さない外科治療の実践」。低侵襲な術式を採用し、内視鏡のもので手術も積極的に行う。新生児・未熟児や泌尿器系疾患の手術にはマイクロサージャリー技術を取り入れる。「メスで治せるのが一番だが、内科的なアプローチや術後の排泄管理などが必要な場合もある。患者さんがより生活しやすいよう、さまざまな工夫をしている」

外来診療は火、水曜日。専門医2人が診療する。ただし、緊急の場合は適宜対応する。

高度救命救急センター▶岡山県内では川崎医科大学附属病院(倉敷市)で既に運用されており、岡山大病院は2カ所目。救命救急センターは岡山赤十字病院(岡山市)津山中央病院(津山市)にもある。2010年中の県内救急搬送人員は7万4,036人で、うち救命救急センターへの搬送は9,527人(12.8%)だった。



高度救命救急センター 「最後の砦」として使命果たす 大規模災害時の対応も迅速に

昨年10月、救急部・救急集中治療部を改組して設置された3次救急センター。今年4月には岡山県から高度救命救急センターと災害拠点病院の指定を受け、本格運用を始める。従来の平常時における救急医療にとどまらず、大規模災害時には災害医療派遣チームDMAT(「 टीम マット」)の隊員として医師や看護師らの派遣を想定する。

岡山大学病院は東日本大震災の被災地に、医師や看護師、薬剤師ら延べ約70人を派遣。避難所や岩手県内の病院などで診療応援に当たった。同センター長の氏家良人教授は「被災地での活動を通じ、救急医療の重要性が再認識された。この経験を基に、災害時、迅速に活動できる体制を築きたい」という。

重症熱傷や四肢切断、急性中毒など重篤な患者を24時間体制で受け入れる高度救命救急センターは、救急科の医師11人と、循環器内科、整形外科

4月に国立大学病院で初めての頭頸部がんセンターが始動する。医科、歯科、看護師、コメディカルなど診療科の枠を超えたチーム医療を一貫して行うのが特徴。耳鼻咽喉科、形成外科、脳神経外科、精神科神経科、緩和ケアチーム、顎口腔再建外科、歯科放射線科など15以上の診療科などが携わり、言語聴覚士、管理栄養士らもチームに加わる。

血管も縫い合わせることも可能という。「再建の方法は一人一人違う。残った組織の機能を最大限に生かすよう心掛けていく」と木股教授。

センター窓口は耳鼻咽喉科の外来に開設。診療日の火、水、金曜日には関係診療科の医師・歯科医師らが常時待機する。「がんが治っても、機能や容姿で苦しむ患者さんも多い。そうした患者さんにとっても救いとなるセンターにしたい」

頭頸部がん▶鼻、口、のど、上あご、下あご、耳などにできるがんの総称。治療で呼吸、食事、発声、聴覚など社会生活を送る上で重要な機能が損なわれることがあり、がんの根治とともにこれらの機能をいかに維持し、QOL(生活の質)の向上を図るかが大切になる。患者数はがん全体の約3%だが、鼻、副鼻腔、舌、咽頭など種類が多く、原因や治療法、予後が異なるのが特徴。





自然科学研究科 教授

沈 建仁

SHEN Jian-Ren (50歳)

- ▶1961(昭和36)年 中国・杭州市生まれ
- ▶1982(昭和57)年 中国浙江農業大学農学部卒
- ▶1986(昭和61)年 東京農工大学大学院理学研究科修士課程修了
- ▶1990(平成2)年 東京大学大学院理学研究科相関理化学専攻博士課程修了、理学博士
- ▶1990(平成2)年 理化学研究所太陽光エネルギー科学研究グループ、基礎科学特別研究員
- ▶1993(平成5)年 理化学研究所太陽光エネルギー科学研究グループ、研究員、先任研究員
- ▶2003(平成15)年 岡山大学理学部、教授
- ▶2004(平成16)年 岡山大学大学院自然科学研究科、教授

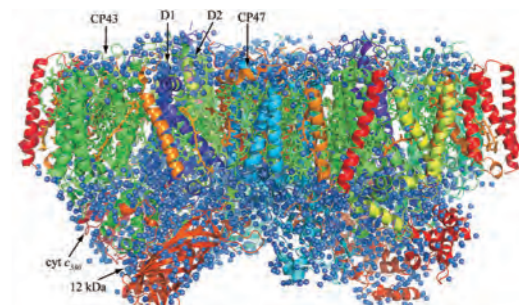
サイエンス誌『2011年十大成果』に選出!

特別寄稿

世界で最も権威ある学術雑誌の一つサイエンス。同誌が科学の全分野から選んだ「2011年の科学十大成果(Breakthrough of the Year 2011)」の一つが、自然科学研究科(理)の沈建仁教授らの研究成果だ。岡山大学では前例の無い偉大な業績を上げた沈教授から、専門とする「生体分子構造」の研究について寄稿してもらった。

光合成触媒を研究

私たちの研究室は、植物や藻類が行う光合成の中で最初に起きる反応において、触媒として作用するタンパク質を調べています。多くのタンパク質が集まった複合体で、「光化学系II」といいます。生物の種類によって多少大きさの違いはありますが、酸素発生型の光合成を行う生物で最も原始的なラン藻だと、タンパク質は20種類、分子量は35万にも及ぶ巨大なものです。光合成は、太陽の光エネルギーを利用して二酸化炭素と水から有機物を合成する一連の反応の総称です。光合成によって有機



▲光化学系IIの全体構造。青色のボールは水分子

『人工光合成』の実現に期待



▲光エネルギーを利用した水分解反応の触媒中心の構造。詳細な立体構造が世界で初めて解明された

物が合成され、地球上の生物が生存するのに必要なエネルギーが供給されています。石油や石炭などの化石燃料も、はるか昔の光合成による産物です。光化学系II複合体は、光合成において太陽の光エネルギーを吸収し水を酸素、水素イオン、電子に分解する反応の触媒として働きます。この反応で出る酸素は好気的な地球環境を維持しているのです。

夢のクリーンエネルギー

光化学系IIにおける反応の仕組みを解明することは、光合成の原理を解明するだけでなく、

人工的な応用の面からも重要な意味を持っています。水の分解により得られる水素イオンと電子はエネルギー源となり、水素燃料や有機物の合成にも利用可能だからです。つまり、自然界で行われている光合成の一部だけを取り出して模倣することで、光エネルギーの効率的な人工利用が可能というわけです。これが「人工光合成」という研究領域です。水を分解する効率的な人工触媒ができれば、太陽の光エネルギーを自由に利用することが可能となり、人類が石油、石炭、原子力などに頼らない究極的な「クリーンエネルギー」源を手に入れることとなります。これは古くから多くの研究者の夢です。

これまで多くの研究者が様々な手法で光化学系IIの仕組みの解明に取り組んできましたが、まだ十分解明されていません。なぜなら、光化学系IIが巨大なタンパク質の複合体というだけでなく、チラコイド膜という生体膜上に存在する、水に溶けない「膜タンパク質」の集まりだからです。細胞の中からまとまって取り出すときに一部が脱落しやすく、純度の高い精製が難しいのです。

Spring-8を活用

私たちは、光化学系IIタンパク質の良質な結晶を作り、その構造を0.19ナノメートルという高い解像度で解明しました。兵庫県の播磨科学公園都市にある「Spring-8」という大型放射光施設を利用して、「X線結晶構造解析」という手法を用いたからです。これにより、光エネルギーによる水分解で、触媒として働く「活性中心」の構造が初めてわかり、水分解反応の詳しい機構を解明する重要な手がかりを得ました。この成果を報告した論文が2011年5月、英国の学術雑誌ネイチャーに発表され、同年末、米国の学術雑誌サイエンスに「2011年の科学十大成果(Breakthrough of the Year 2011)」の一つとして選ばれました。



▲大型放射光施設「Spring-8」=『提供：RIKEN/JASRI』



ロンドン五輪目指す マウンテンバイクで勝負

山道を走り順位を競う

マウンテンバイクで山道を登ったり下ったりして、1周5〜7キロほどのコースを5、6周し、順位を競うクロスカンントリーに出場しています。山道なので開催場所によって時速が違い、陸上などと違ってタイムの記録はあまり意味を持ちません。

現在は、7〜8月にかけて行われるロンドン五輪出場に向け、主にヨーロッパで行われる海外のレースに出ています。ロンドンに出るためには、世界における日本の国別ランキングを上げ、枠を取らないといけません。日本は現在出場できるか非常に微妙な状況にあります。マウンテンバイクは1996年のアトランタ五輪で正式種目になってから、シドニー、アテネ、北京と出場が続いているので、絶対に途絶えさせない気持ちで頑張っています。

在学中に全国初優勝

自転車に出会ったのは岡大のサイクリング部です。軽い運動ができるさわやかなイメージと旅ができる楽しさから選びました。大学1年の秋、4年生の先輩が旭川の河川敷を回る小さなクロスカンントリーレースに出場していました。応援に行ったら「出る」と言われ

準備もなくいきなり出場しました。これがレースとの出会いです。この時はまさか競技をずっとやるとは思っていませんでした。

4年生で忙しくなり、時間に余裕がなくなる中で続けていたのが自転車です。下宿先から大学までの通学を、自転車で遠回りなどしているうち、スピードが上がっていききました。修士2年になる前の春休みに本気で練習に取り組みと、その年、全国大会「ジャパンシリーズ」で初優勝しました。この時の仲間の笑顔が忘れられません。自分が頑張ることで人を喜ばせることに価値を感じ、マウンテンバイクを続けようと、選手になりました。

自然を駆ける魅力

マウンテンバイクでは「非日常」を味わえます。泥を巻き上げながら自転車から自然の中を駆け抜ける爽快感は日常では感じられない魅力です。普通の自転車と違い、岩や木の根を乗り越える縦の動きやコーナーを急に曲がる横の動きなど、3次元の動きが多く、技術的なやりがいも大きいです。危険な下りを「転ぶかも」という恐怖と戦いながらクリアできた瞬間は最高です。

競技に対しては、常に新しいことに挑戦し、新しい環境を求め、

自分が変化することを心がけています。専門とは違う種目に出て新しいライバルを見つけ、積極的に未知の場所に出て行くなど、同じことを続けないようにしています。

世界にいるライバルは、自分の可能性を引き上げてくれる存在です。ライバルが好成绩を残すと「私もやれるはず」と頑張れます。もちろん勝ちたいと思っただけですが、それ以上の一番のモチベーションは「自分ももっと強くなる」というところにあります。

やり残した舞台へ再挑戦

北京五輪に出場した時は、その半年前に足を骨折しました。トレーニングが十分できず、満足のいくパフォーマンスが発揮できませんでした。周りから「日本人過去最高位」を評価してもらえませんが、「もっとやれた」という気持ちがあります。五輪にはまだまだやり残したことがあります。自分ももっと強くなりたいという気持ちでロンドンへの思いです。

北京の時とは練習やレースへの取り組みなどが全然違います。これまでの4年間は積極的にヨーロッパのレースに出場し、世界のトップレースを走ってきました。ロンドンに出場できたら、世界のトップの中で、勝負がができるのではないかと思います。

卒業生 その人に聞く

片山 梨絵

KATAYAMA
Rie

自転車競技女子
マウンテンバイク選手 × 岡山大学理学部卒
自然科学研究科博士前期課程修了

岡山大学在学時にマウンテンバイクに出会う。

現在全日本選手権8連覇中と、第一人者として日本を引っ張る。

2008年、北京五輪に出場。2010年にはアジア大会で銅メダルを獲得した。

2012年、ロンドン五輪出場へ照準を定め、勝負をかける。



かたやま りえ (32歳)

- ▶1979(昭和54)年 大阪府吹田市出身
- ▶2002(平成14)年 岡山大学理学部卒
- ▶2004(平成16)年 岡山大学大学院自然科学研究科博士前期課程修了
- ▶2004(平成16)年 全日本選手権優勝(現在8連覇中)
- ▶2004(平成16)年 世界選手権出場(現在8年連続出場中)
- ▶2004(平成16)年 アジア選手権優勝
- ▶2008(平成20)年 北京五輪出場(20位:日本人男女通じ過去最高位)
- ▶2010(平成22)年 アジア大会銅メダル獲得

研究、スポーツ、趣味、特技... 学内外のさまざまな場面で活躍する岡大生たち。そんなきらりと光る学生を、同じ学生の目線から紹介する。

岡嶋省悟

経済学部4年

OKAJIMA SHOGO



就活生の“道しるべ” 応援サークル「就活オ・レ！」

就職活動（就活）には「決まりがない」と言われる。就活生は各自が目指す「内定」というゴールに向け、選考の日程も方法も違う戦いに挑むことになる。それだけに活動の初期は、何かを始めれば良いか分からない就活生も多いはず。右も左も分からない就活生にエントリーシート（企業採用選考への応募書類）の書き方、筆記試験、グループディスカッションといった就活セミナーの開催や個別の相談などを通じ、「道しるべ」となって応援するサークルがある。その名も「就活オ・レ」。活動のコンセプトは「岡大の就活を盛り上げる」だ。

結成は2008年。岡大の就活を盛り上げることで、岡大全体を盛り上げようと考えた学生が集まったのがきっかけだった。当初は10人ほどでスタートしたが、現在は約40人が所属。3年生が主体となり、就活を終えた4年生のフォローを受けながら、サークル活動と自身の就活を両立している。



「ゆくゆくは1、2年生にも関わってもらい、大学全体を巻き込み、キャリア開発を盛り上げていけるような組織にしたい」と話すのは、「就活オ・レ！」代表の岡嶋省悟さん（経済学部4年）。最終目標は「チーム岡大を創る」こと。今は、その目標へ向けて階段を上がっている段階という。サークルが情報発信する公式ツイッターのフォロワーは500人を超え、主催するセミナーには仕事を休んで駆けつけてくれるOB・OGも出てきた。活動に確実な手応えを感じる日々だ。

「後輩のため何かできれば」 経験生かし就活支援

た。そんな経験が「実際の就活で生きた」と話す岡嶋さん。セミナーなど人前で話したことや、企業の人事担当者に直接取材をしたことが「面接での度胸につながった」という。自分が書いた企業紹介冊子を面接に持参し、披露することもあった。

サークル活動の中で多くの先輩と話し、「地元で自分の能力を生かしたい」という気持ちがある生え、希望の就職先は地元の金融機関に絞った。地道な活動が実り、見事、希望通りに内定を

サークルでは、内定者・先輩社員によるアドバイス会や企業の人事担当者の体験面接を受けられるセミナーの開催、企業紹介冊子の取材・発行などを行っ



決めた。

岡嶋さんは「先輩に助けられ、仲間と切磋琢磨する中で自分も成長し、納得のいく就活にすることができた。サークル活動が自分自身を考え直すきっかけになった」と振り返る。社会人としてのスタートの前に、「後輩のため何かしたい」。そんな思いで今も活動を続けている。

つらいときに仲間や先輩が手を差し伸べてくれる環境は、就活に悩む学生たちにとってこの上なく、心強いものになるだろう。これから就活を始める人も、進路に迷っている人も、「就活オ・レ！」が活動するキャリア開発センターに足を運んでみてはいかがだろうか。



インタビュー
岡山大学学生広報スタッフ
経済学部経済学科4年
佐野 恭平

Organization for Diversity Management

ダイバーシティ推進本部

企画・総務担当理事を推進本部長とし、2009年1月に設置されたダイバーシティ推進本部。「性別・国籍・年齢・障害の有無に関する構成員の多様性を高め、ダイバーシティ文化の醸成に努める」というダイバーシティポリシーの基、男女共同参画室、次世代育成支援室、障害者雇用推進室、高齢者雇用安定室（設置当初は外国人雇用推進室を含む5室）の4室を中心に、全ての職員の仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進を目指している。

●男女共同参画室

<http://www.okayama-u.ac.jp/user/jinji/diversity/danjo/index.html>

集え！女性研究者。男女共同参画室では、次世代を見据え、男女ともに大いなる資質と能力が持続的に飛躍向上し、開花する環境整備を目指し、取り組みを進めている。



●雇用の確保

公募した若手女性研究者を3年任期で採用する「ウーマン・テニユア・トラック（WTT）」教員制度は2009年度にスタート。年3〜4人ずつ、計11人を採用（12年度内定者含む）した。WTT教員は特任助教としての活動のかわら、学生・院生の教育にも携わる。WTT教員対象の各種スキル・アップセミナーも開かれ、大学の研究者・教育者としてのノウハウも修得する。11年から新規にスタートした文科省科学技術人材育成費補助金「アニエアトラック普及・定着事業」にWTT制度が選定された。この事業による研究資金の支援で自立した研究環境が一層整備された。任期中の実績により、常勤教員としての道も開かれている。

バンクも設置。情報はデータベース化され、男女共同参画室でマッチングを行っている。

●気軽に相談

女性の悩みに応じる相談室を津島地区では火・金曜日の午前10時〜午後4時、環境理工学部2階のキャリアサポート室分室で、鹿田地区では月曜日の午前10時〜午後4時、医学部記念会館3階で開設。女性臨床心理士が、キャリア確立や結婚・子育てなどのライフプラン、日常の悩みなどに応じる。メール（support@adm.okayama-u.ac.jp）での相談も可能。2カ月に1回程度開く「キャリア・カフェ」には女性教職員や院生らが参加。ランチタイムなどを活用し、日ごろの悩みを気軽に話し合える場として定着した。



●リケジョを応援

理系分野への理解を深めてもらうべく、WTT教員と院生が最先端の研究を分かりやすく解説する「おokayama-u.ac.jp」は次世代を担う中・高生を対象に、現地校に出向き年5回程度開催。フリートークキングの時間も設け、将来や人生設計について自由に話し合う。オープンキャンパスでは、理系の学部生・院生がフリー・デイスカッション形式で高校生と接し、その魅力を伝えている。

講義でも男女共同参画の視点を立ったキャリア教育を目的に、本年度から教養教育科目を開講。来年度は「プロフェッショナルを目指すあなたへ…男女共同参画社会のライフ・デザイン」と講義名を改め、オムニバス形式で開講する。



●次世代育成支援室

<http://www.okayama-u.ac.jp/user/jinji/diversity/jisedai/index.html>



子育て応援します。次世代育成支援室では、仕事と家庭の両立を支援する。岡山大学は2010年度に次世代認定マーク「くろみん」を取得、本年度は「おokayama-u.ac.jp」の中で独自性、先進性のある取り組み内容で、優れた成果があったとして岡山県知事から表彰を受けた。

も、明るく素直な子ども、挨拶ができる子ども、頑張る子ども、感謝のできる子どももの五つを掲げる。



09年10月には岡山大学病院内に「ますか」と病児保育ルームを開設。専任の小児科看護師と保育士が常駐し、生後6カ月から小学6年の病中・病後（小児科医が指定する感染症を除く）の子どもを4人まで預かることができる。



長期休業中（春、夏、冬休み）には学童保育施設「かいのき児童クラブ」（津島地区）を開設し、学内関係者の小学生を預かる。定員は60人で、地域の子どもも一部受け入れている。保育時間は午前7時半〜午後7時まで。竜ノ口登山、皆既日食観望会、サマーコンサート、実験教室、もちつきなど季節に合わせたイベントも企画し、子どもたちに好評だ。

●イクメンしてませんか？

本年度から男性教職員のワークライフバランス向上を目指し、「育Men's Club」と銘打った活動をスタート。男性教職員が利用できる支援制度を紹介し、仕事・子育ての両立について情報交換する場を提供する。厚労省の「イクメンサポーター」に登録し、育児休業取得を促進するための活動を行う。

男性教職員が子育て秘話を紹介する冊子「岡大パパの育児エッセイ集」
(http://www.okayama-u.ac.jp/user/jinji/jisedai/papa_kosodate/)も発行。育児経験がある本学の男性職員による「育休パパのすすめ」や「津島パパの生き生き育児」などを紹介する。

●障害者雇用推進室

<http://www.okayama-u.ac.jp/user/jinji/diversity/handicap/index.html>

障害者雇用推進室は2009年4月、障がい者の法定雇用率を達成する施策の一環として「グッドジョブ支援センター」を設置。障がいのある職員が支援員のサポートのもと、事務、軽作業など多様な業務に当たっている。11年3月にはバリアフリー設計の専用作業室を整備し、よりよい職場環境で働きがいを持って業務に取り組む体制を整えた。

いを持つ職員34人がグループに分かれ業務を行う。保健管理センターや岡山障害者職業センターなども連携し、職員のカウンセリングや研修会を実施するなど、働きやすい環境整備に努めている。

●業務の依頼を受け付け

グッドジョブ支援センターは、各部署からの業務の依頼を受け付けている (<http://www.okayama-u.ac.jp/user/jinji/diversity/handicap/request.html>)。同推進室は、今後もこれまで学外へ外注していた業務や職員が行っている業務の中で同支援センターへの移行が可能な業務を検討し、職域の開発に取り組んでいく。

●学内保育施設



教職員や研究生、院生らの子どもを預かる乳幼児保育施設「なかよし園」（鹿田地区）を設置。収容定員は70人で、0歳児から5歳児までを四つのクラスに分けている。保育目標は、仲良く元気な子ども

る。定員は60人で、地域の子どもも一部受け入れている。保育時間は午前7時半〜午後7時まで。竜ノ口登山、皆既日食観望会、サマーコンサート、実験教室、もちつきなど季節に合わせたイベントも企画し、子どもたちに好評だ。

育休経験がある本学の男性職員による「育休パパのすすめ」や「津島パパの生き生き育児」などを紹介する。

●多彩な業務

グッドジョブ支援センターの業務は主に四つ。図書の整理、シユレッター、会議資料セットなどの事務作業▽本部棟や津島地区の草刈り、落葉集め、清掃などの軽作業▽津島地区構内と鹿田地区の文書集配業務▽農学部附属農場での畑作業・出荷準備など。現在、支援員10人と障が



岡山大学のニュース&トピックスおよび最新情報は岡山大学のホームページからご覧いただけます。

<http://www.okayama-u.ac.jp>

12 December

13日 定例記者発表を開催

14日 公開シンポジウム・外務省外交講座で同省総合外交政策局 国連企画調整課の久野和博課長が講演

21日 キャリア開発センター主催の「第1回トップキャリアセミナー」で、前ソニーCEOでクオタムリープ代表取締役、フアンダー兼CEOの出井伸之氏が特別講演



1 January

12日 山陽新聞社と教育に新聞を生かすNIE活動の推進などを盛り込んだ包括的連携協力に関する協定を締結



2 February

1日 岡山大学若手研究者キャリア支援センターが開所
学位取得者（ポストドクター）や博士後期課程学生のキャリアパス支援の拠点となる「岡山大学若手研究者キャリア支援センター（Career Support Center for Young Researchers）」が開所。同センターは、大学院の各研究科と連携し、企業への就職を目指す若手研究者のキャリア形成を総合的・実践的に支援。長期インターンシップを柱に、講義、セミナーなどを通じて企業で活躍するために必要な知的財産管理、経営、プレゼンテーションなどの知識、能力を身に付けるほか、コーディネーターとの個別面談で、意識改革を図る。旧工学部21号館2階を改修し、事務室と面談室兼講義室を整備。文部科学省の「ポストドクター・インターンシップ推進事業」に採択されており、2015年度まで5年間の支援を受ける。



2 March

29日 「岡山大学若手研究者キャリア支援センター・オープンニングセミナー」を開催



3 March

2日 岡山大学・フエ工科大学特別コースの成果発表・修了報告会を学内で開催



3日 岡山大学、中国、吉林、韓国、成均館大学が連携して世界を舞台に活躍できる人材育成を目指す「キャンパス・アジア」事業のスタートアップコンファレンスを岡山市内のホテルで開催



7日 前期日程の合格者を発表



8日 優れた業績を挙げた若手研究者を顕彰する「若手トップリサーチャー学長表彰式」を実施

18日 留学生と日本人学生が英語で紹介し合う交流会「International Night 2012: The Universal Language of Music and Dance」を国際交流会館で開催

19日 研究成果が米国・学術雑誌サイエンスの「Breakthrough of the Year 2011（2011年の画期的成果）」の一つに選ばれた自然科学研究科の沈建仁教授による特別講演会を開催



25日 サウジアラビアのアブドゥルアジズ・トルキスター二駐日大使による特別講演会「サウジアラビアと日本」を開催



15日 自然科学研究科の沈建仁教授の功績を称え、学長が表彰状と副賞を授与

16日 定例記者発表を開催

21日 「おかやま子育て応援宣言企業」岡山県知事賞を受賞



25・26日 平成24年度個別学力検査等前期日程を実施

25・26日 最先端の宇宙開発技術に触れる「スペース・サイエンス・ワールド」と「スペース・サイエンス」を鳥取県内で開催
地球物質科学研究センターは「スペース・サイエンス・ワールド」と「スペース・サイエンス」(鳥取県、同県産業技術センターと共催)を同県倉吉市の県立倉吉未来中心で開催した。同県三朝町にある同センターで、小惑星探査機「はやぶさ」が持ち帰った小惑星イトカワ微粒子の初期分析を行っていることなどから企画。同センター

研究・臨床成果

■異分野融合先端研究コアの守屋央朗准教授らのグループが、酵母細胞の増殖・分裂を制御する遺伝子の「頑健性」を測定することに成功。得られた情報をコンピュータ細胞モデルで精密に再現した。がん治療などへの応用が期待される。国際科学誌 Molecular Systems Biology (電子版)に掲載。(12月・臨時記者発表)

■大学院自然科学研究科の阿保達彦准教授が参加する研究グループは細胞内で合成が完成したタンパク質と区別して合成途上鎖を検出する方法を世界で初めて開発。合成途上鎖の全体像を「ナッセントーム」と呼ぶことを提案した。米国の科学雑誌 PLOS ONE にオンライン掲載。(12月・臨時記者発表)

■大学院医歯薬学総合研究科の山本和秀教授と大学院消化器内科の三宅康広助教らのグループは、慢性炎症性疾患患者の血清中からリンパ球表面に発現する Programmed cell death-1 (PD-1) という補助刺激分子に対する自己抗体を発見。新たな検査方法や治療薬の開発に応用できると期待される。(12月・定例記者発表)

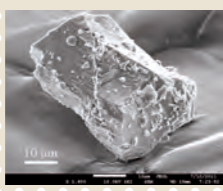
■大学院環境学研究科の木村幸敬教授らは水酸化ナトリウムを添加した亜臨界水(350℃)によって、120秒の反応時間でグリセリンから90%以上の転換率で乳酸を連続的に生産することに成功した。この反応ではアルカリ濃度が高いほど高収率が得られることが分かった。(12月・定例記者発表)

■大学院環境学研究科の藤澤和謙講師は近年、多発する豪雨による河川の氾濫、地すべりなどに起因する天然ダムや堤防からの越流・越水による破堤現象のメカニズムを研究。限界流の発生する堤体の頂上付近で侵食を発生させないことが、堤防などの決壊を防ぐことにつながることを提言。(12月・定例記者発表)

■大学院自然科学研究科の金山直樹准教授(細胞機能設計学)、大森斉教授(同)らのグループは抗体の親和性成熟の過程で起る体細胞高頻度突然変異に、スプライシング因子 SRSF1 のアイソフォーム3 (SRSF1₃) が必須であることを世界で初めて発見。米科学アカデミー紀要 (PNAS) 電子版に発表した。(1月・臨時記者発表)

■大学院自然科学研究科の鄭国慶教授、川崎慎司講師らの研究グループは、鉄系高温超電導体の超電導実現条件を明らかにした。グループは高品質の試料で詳細な実験を行い、鉄の電子が帯びる磁気が高い超電導転移に有利に働くことを証明。米物理学会速報誌 Physical Review Letters 誌に掲載。(1月・臨時記者発表)

■探査機「はやぶさ」が小惑星イトカワから持ち帰った試料の初期分析を行う地球物質科学研究センターの中村栄三教授らは、粒子表面に太陽風にさらされることによる宇宙風化の痕跡に加え、数10ナノメートルの微粒子が極めて高速でぶつかった結果形成されたドーナツのようなリングを持つクレーターや、衝突のエネルギーによって融解した飛沫が飛び散り付着した様子、さらには1マイクロメートル程度の破砕された極微細粒子が付着していることなどを確認。論文を米科学アカデミー紀要 (PNAS) 電子版に発表。(2月・主催シンポジウムにて発表)



■資源植物科学研究科の馬建鋒教授らは、大麦の酸性土壌環境適応力を解明した。馬教授らが同定していた鉄を輸送するための遺伝子 HvACT1 の上流にみられる 120塩基対 (120bp) の挿入が、HvACT1 の発現量を高め、発現部位も根の中心柱から根端へと変化させていることを突き止めた。英国科学誌 Nature Communications に掲載。(3月・臨時記者発表)

年間後記

本誌編集に携わるようになってほぼ1年が経過いたしました。携わるようになって、編集のほとんどは総務・企画部企画・広報課の皆さんがしているので、お手伝い程度でしたが、編集に携わるまでは、「いちよう並木」の発行主旨など考えたこと

もありませんでした。携わるようになって、本誌が卒業生をはじめとした学外の方(学内関係者)に大学の動きを伝える広報誌であることを認識しました。大学の「動き」なので、森田新学長、学長特別補佐に就任された妹島和世先生、西沢立衛先生、本年度設置された地域総合研究センター(AGORA)、2つのセンターが運用を開始する

大学病院など、最近動きがあったことをお伝えするのは当然ですが、大学に居る自分もよくなっていない、大学の「活動」を担う組織、特に全学センターや機構もご紹介できればと思っています。また、学外の方(と学内関係者)にだけでなく、在学生にも本学を

広報(「アピール」)したいと思っています。そのために、まずはこういう方法で広報するから議論してほしいと思っています。

「いちよう並木」の編集を担当させていただき、早いもので1年が経ちました。森田新学長へのインタビュ、学長特別補佐のSANA Aのお二人(妹島和世先生と西沢立衛先生)へのインタビュなど、たいへん印象に残る貴重な機会をいただきました。また、編集を通して、岡山大学のさまざまな組織や活動、卒業生の活躍など、たくさんのごことを新たに知ることができました。これらを通して感じることは、それは「岡山大学はすごい!」ということだと思います。しかし、その素晴らしさをまだまだ伝えきれておりません。学長が目指されている「みなさんが自慢に思い、誇りにする大学になる」ためにも、今後も本学の優れた活動や成果を学内外の多くの方に知ってもらえることが大事と思っています。編集長の後藤先生や企画・広報課のスタッフの方々とともに、より充実した「いちよう並木」になることを目指して2年目も頑張りますので、引き続きの協力とご支援のほどよろしくお願いいたします。

工学部教授 ● 後藤 邦彰

教育学部准教授 ● 林 創

postscript
by the editor

岡山大学生協同組合



パーティーは学内で。岡山大学生協は津島地区の福利厚生施設・ピーチユニオンで、謝恩会や立食パーティーをプロデュース。リーズナブルでボリューム満点なパーティープランを充実させている。

メニューは、刺身や揚げ物などのおつまみ、すし、サンドイッチといった軽食、サラダ、フルーツと多彩。1人3千円のコースでは刺身の船盛、海老餃子、牛タンシチューなど約12品を出す。コースは千円からあり、予算に応じて料理は選べる。

学内でパーティーを



飲み物は
“飲んだ分だけ後から精算する”うれしいシステム。ソフトドリンクや農学部産の米を100%原料にした日本酒「お岡大」シリーズ、岡山県産のワイン、地ビールなどを取りそろえる。



- 3,000円コース例**
- お刺身の船盛
 - お寿司
 - サンドイッチ
 - 蒸し物(海老餃子、小籠包ほか)
 - エビチリソース
 - 牛タンシチュー
 - ローストビーフ
 - スモークサーモン
 - オードブル
 - サラダ
 - フルーツ ほか

問い合わせ、ご予約は
岡山大学生協同組合食堂部
☎ 086-256-4106 まで

広告